

「ウィルチェアーラグビー」との運命的な出会い



北海道医療大学
看護福祉学部臨床福祉学科3年

うえはら ゆうな
上原 優奈さん



やんちゃな性格!?

幼少の頃から体を動かすのが大好きで、どちらかというと女子よりもいつも男子と一緒にドッジボールなどをして遊んでいました。じっとしてられない性格なんです。小学生から柔道を習い始めました。

まさか自分が…

高校に進学してからも柔道が続けました。2年生の時に柔道の試合で私の人生が変わる事故が起きました。意識が戻った時は病院のベッドの上でした。一時的に意識を失っただけと思っていたのですが、いざ起き上がろうとしたら身体が思い通りに動かない。「まさか…。本当に?」下半身が動かなくなりました。なぜ私が…。現実を受け入れられず、一時は気力を失っていました。でも高校だけは卒業したいと思い、事故から10カ月間の入院を経て高校にも復帰し、何とか卒業することができました。卒業後は、自立した生活ができるようにリハビリを行いながら、自動車の運転免許も取得しました。

ウィルチェアーラグビー

リハビリの先生との何気ない会話のなかで、「ウィルチェアーラグビー」という障がい者スポーツがあることを教えてもらいました。このスポーツは、1チーム4名で構成しており、車イスもハードな競技に耐えられるように改良された専用のものを使用します。ボールはヤシの実の形ではなくバレーボールくらいの丸いボールを使用してルールの規定内であれば、どの方向にもパスができます。興味本位で見学に行ってみたのですが、車イスを自由自在に操り、選手同士が激しくぶつかり合うその迫りに圧倒されました。何かしたいと思っていた私は「これだ!」と思い自分から進んでチームに入ることを決めました。練習を重ね、今年6月には横浜市で開催された大会に初めて出場しました。すごく緊張しましたが、やっぱり身体を動かすことが大好きなんです。ウィルチェアーラグビーは、塞ぎがちだった自分を明るい自分に戻してくれたかけがえのないスポーツです。

自身の経験を活かしたい

現在は医療ソーシャルワーカーの国家資格を目指して大学で勉強しています。不慮の事故により障がいを持ったことを受け入れられず引きこもる人もいます。将来、そんな人達の心のケア・サポートをしていく「ピアサポーター」も目指しています。私の経験を活かして同じ障がいを持つ人に元気と希望を与えてあげられる人間になるのが夢です。



上原さんが所属するチーム
ビッグディッパーズ
「北海道 Big Dippers」

総合体育館にてウィルチェアーラグビーの練習を行っています。次回は10月17日(土)に普及活動が行われます。自由に参加できるので、ぜひ足を運んでみてください。

(9月3日取材)